

更級歯科医師会介護保険部講演会

令和7年11月2日 篠ノ井総合病院あい講堂

令和7年11月2日に更級歯科医師会介護保険部講演会、篠ノ井総合病院あい講堂において長谷剛志先生（公立能登総合病院 歯科口腔外科）をお招きして食支援・口腔管理の講演が開催された。



能登半島地震による延期後の4回シリーズの5年目の最終回になる。今回の演題『高齢者の「窒息」予防と食支援～誤嚥とは異なる注意点と観察～』に先立ち、災害での救命活動と震災ストレスの支援、口腔健康支援活動を講師自身の震災体験とともに詳述された。

主題では、食事による「窒息」予防を基軸に、摂食嚥下機能が低下した高齢者の食支援において多職種チームでの歯科医療従事者としての食事提供時のリスクマネジメントや対象者の背景疾患・服薬の情報整理と食事場面の観察（ミールラウンド）について解説され、食事観察サポート「い～とみるカード」を用いての症例検討とグループ別でのディスカッションが行われた。

シリーズ4回にわたる講演の中で歯科医療の深奥と歯科医師の有り様を強く感じました。

「情熱だけでは駄目。広い医学的な理解が必要」その言葉通りの氏の高い学識に沿った基礎医学とそれに裏付けされた臨床の講演内容、寝たきりで会話もできない患者を終には経口で食事を可能にした驚嘆すべきケースレポートや又、能登半島地震では被災した講師自身やご家族のことは後回しにせざるを得ない上で救命活動に駆け付け災害医療に奔走された使命感に畏敬の念を禁じ得ませんでした。

このような貴重な講演を受講できたことに謝辞を述べるとともに、末筆ながら長谷先生の益々の御活躍を祈念いたします。（竹内 洋 記）